

トンキン湾海洋境界画定交渉に みるベトナムの対中海洋政策

はじめに

- 1 1970年代のトンキン湾海洋境界画定交渉
- 2 1990年代の交渉
- 3 境界画定の法的・技術的問題点
- 4 「海洋境界画定条約」および「漁業協力協定」の署名・発効
おわりに



内山 美生
(元外務省上席情報分析官)

はじめに

拙著「ベトナムと中国のトンキン湾海洋境界画定—中国の唯一の海洋境界画定」（2023年、創成社）で取り扱ったトンキン湾海洋境界画定交渉に見るベトナムの対中海洋政策を紹介したい。

ベトナムは、ほぼ同一領域に同一民族集団が居住している東アジア最古の国の1つである。タイ人、ラオス人、チワン族などを含む「百越」と呼ばれるベトナム系民族はBC221年の秦の始皇帝による統一帝国出現まで揚子江以南の地の支配的民族であった¹。中国に新統一帝国成立毎

1 海老根量介「第7章 歴史の中の中国の南向政策—漢と南越の関係についてのケーススタディー」中居良文編著『中国の南向政策』学習院大学東洋文化研究叢書、御茶の水書房、2020年12月8日、pp.223-224:「BC5世紀に繁栄し『春秋の五覇』に数えられた『越』が最初に中国史に現れた王国であるが、『越』が湖北省の『楚』に滅ぼされて支配下に入った後も、浙江省南部以南の世界は始皇帝による中国統一までは引き続き『百越』の世界であった」。岡田英弘『中国文明の歴史』講談社現代新書、2004年、p.69:「夏人と結びつく系譜を持つ越人は、浙江省、福建省、広東省、広西チワン族自治区、ベトナム方面に分布していたが、その故地に残存する上海語、福建語、広東語の基層はタイ系の言語である」。

Brantly Womack, *China and Vietnam, The Politics of Asymmetry*, Cambridge University Press, NY, USA, 2006, p.24:「中越は国家と認識できる形になる前、それぞれ石器文明、青銅器文明の展開した場所で、中国文明のルーツの黄河地域とベトナム発祥の地の紅河デルタは遠く離れている。春秋（BC770～476）・戦国（BC475～221）時代に国家が互いに戦い相互

に繰り返された侵略に抵抗し、漢・隋・唐に破れたが秦・南漢・宋・元・明・清・中華人民共和国は退けた。ウォマックは3千年の中越関係を常に非対称な関係であったとして「中国はベトナム問題を『解決』できず、ベトナムも中国問題を『解決』できず、関係を『正常 (normal)』として受け入れ、中国は挑戦を受けずベトナムは自律性を脅かされずと確信し、両国間の様々な問題を管理できる非対称の『正常性 (normalcy)』の関係」と説明している²。

ベトナムは、タイとタイ湾排他的経済水域 (EEZ)・大陸棚水域境界を画定 (1997年)、中国とトンキン湾海洋境界を画定 (2000年)、スプラトリー海域でインドネシアと大陸棚境界を画定 (2003年)、マレーシアと大陸棚共同開発を合意 (1992年) して国連大陸棚委員会に両国で調整済みの大陸棚海域主張線を共同提出 (2009年) した。未解決の紛争は中国とのトンキン湾湾口海域とパラセル海域、カンボジアとのタイ湾海域 (1982年に歴史的水域は合意済み)、多国間のスプラトリー海域である。中国は、唯一ベトナムとトンキン湾境界を画定 (2000年) したが、南シナ海での紛争を含め海域を接する9か国・地域のすべてと海洋紛争を抱えている。

ベトナムは実効支配する島礁に守備兵を駐屯させており、最大の島スプラトリー島³には守備兵と支援の文民の数十人が居住している。南シナ海の全島礁を「人の居住またはそれ自体経済生活を維持できない岩 (UNCLOS 第121条2項) として領海のみをもち EEZ・大陸棚水域をもたない」との立場をとっている。南シナ海での米国の「航行の自由作戦 (FON operations)」に支持を表明し、カムラン港、ダナン港などへの我が国護衛艦、米・露・印・仏・中・韓・加・シンガポールなど各国海軍艦艇の寄港を歓迎している。自国の立場の対外発信に努めており共産党・人民軍などの機関紙はじめ政府系メディアは海洋主権問題に関する出来事を詳細に報道し、英語、中国語はもとより各国語で配信している。

に作用して広い文化圏域が生まれた。ベトナムは百越と呼ばれた越族国家群の最南端に位置し、政治・軍事的作用が展開した圏域の外にあった」。

2 Brantly Womack, 前掲書、pp.23-30。

3 スプラトリー諸島で2番目の大きさと面積0.3km²、台湾が実効支配する最大のイッアバ島は約0.5km²。

トンキン湾の面積は約12.6万km²でベトナム北部、中国広西チワン族自治区、中国広東省の雷州(Leizhou)半島、海南島に面している。北の湾口は海南島・雷州半島間の約30kmの瓊州(Quiongzhou)海峡、南の湾口は海南島の鶯歌嘴(Yingge Zui)とベトナム中部沖合のコン・コー(Côn Cỏ)島とを結びベトナムの海岸まで延長した線である。

ベトナムにとり首都ハノイがあり歴史・文化・政治・経済の中心で海軍司令部もある重要海域である。中国にとり南部諸省の経済に重要であり、海南島南端の三亚市には亜龍湾地下潜水艦基地・榆林戦略ミサイル潜水艦基地・三亚海軍基地などがありアジア最大ともいわれる海軍基地群がある重要海域である。

1 1970年代のトンキン湾海洋境界画定交渉

(1) ベトナムの境界画定提案と中国によるパラセル諸島西部武力占領

1973年1月の米国、北越、南越、南越臨時革命政府によるパリ和平協定後の同年12月26日、北ベトナム政府は在ハノイ中国大使を通じてトンキン湾海洋境界画定交渉を提案した。陸上境界画定交渉は提案しておらず最初の対中境界画定提案である。1974年1月18日、中国は東経107度線と108度線、北緯18度線と20度線に囲まれる海域を開発を禁止する暫定開発留保水域にすることを条件に交渉開始に同意した。

ベトナムの海洋境界画定提案は石油探査のためであったとされるが⁴、1990年代の交渉に携わった越外務省幹部によれば越海域で操業する大量の中国漁船取り締まりが最大の目的であった由である⁵。

1月17～19日、中国人民解放軍海軍は初の海戦でトンキン湾湾口に近しいパラセル諸島で南ベトナム部隊を攻撃して全島礁を占領した⁶。

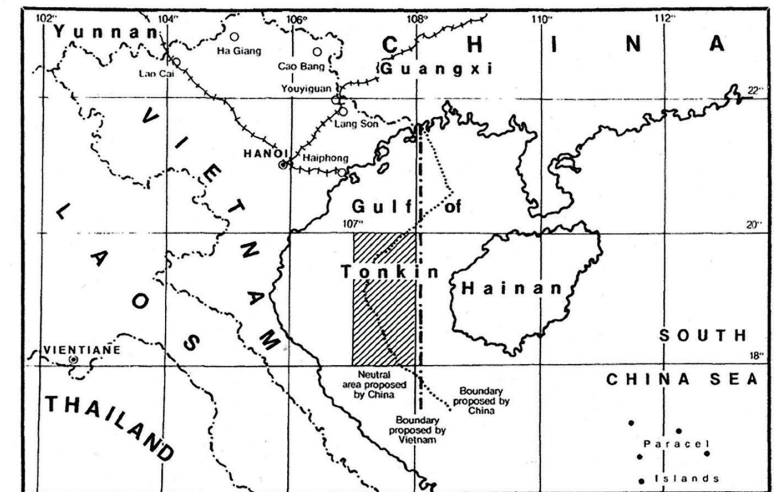
4 例えば、Luu Van Loi, *The Essentials of Vietnamese Land, Sea and Sky*, Thế Giới Publishers, 2015, p.68。

5 越外務省幹部への筆写ヒアリング(2017年8月3日、ハノイ):「1972年に米国が南ベトナムからの撤退を決定し、北ベトナムに国境・境界問題を考える余裕ができた。1970年代トンキン湾で米越間の小競り合いが続いてベトナム漁船が出漁なくなり、大量の中国漁船がベトナム海域で操業していたことが懸念されていた。それが1973年に(石油開発のためとして)境界画定交渉を提案した最大の理由である」と考える。石油開発も考えていたかもしれないが、第一義的な問題ではなかったと思う。1974年1月に中国がパラセル諸島を南越から武力奪取したことも、トンキン湾海洋境界画定を急がせた」。

6 ビル・ヘイトン、安原和見訳『南シナ海』河出書房新社、2015年、pp.110-114:「1月14日、

【トンキン湾地図(暫定開発留保水域)】

MAP 1. The Land Border & the Gulf of Tonkin



出典: Chang Pao-min, "The Sino-Vietnamese territorial dispute", p.15. 中国が交渉開始の条件とした暫定開発留保水域が斜線で示されている。

パラセル諸島のウッディー島(永興島)など東部諸島は中国が実効支配し、西部のパトル島(珊瑚島)、ロバート島(甘泉島)、マナー島(金銀島)、ドラモンド島(晋卿島)、ダンカン島(琛航島)などクレセント諸島の7島は南ベトナムが実効支配していた。

ヘイトンは1989年に公表された北京のパラセル諸島攻撃作戦公式記録に基づき1973年に毛沢東と周恩来が命令し鄧小平が作戦を実施したとし、また、機密解除された米軍文書に基づき1973年12月以降約10日間毎日6隻のトロール漁船で港を出て夕方戻ってくる中国軍奇襲部隊員数百名が北海市で目撃されたとしている⁷。中国のパラセル諸島攻撃決

南越海軍艦は、ロバート島沖に停泊中の中国トロール船2隻を、16日、ドラモンド島、ダンカン島に上陸している中国軍を発見。17日、南越海軍特殊部隊員15名がマナー島に上陸。18日、南越海軍特殊部隊員らがダンカン島上陸を試みたが、中国海軍艦4隻に加え2隻が増援されたため中止。19日朝、南越は交渉を目指して再び上陸を試みたが中国側射撃で2名が戦死し撤退。同日10時、南越海軍艦4隻は中国艦隊に射撃を開始し中国艦2隻大破したが、1隻が撃沈され残る3隻も大破・戦闘不能となりパトル島、マナー島、ロバート島に兵員・気象観測所員を残してダンカンに撤退。残された南越兵等は中国海軍艦の艦砲射撃後にトロール漁船から上陸した中国兵に降伏。」

7 ビル・ヘイトン、前掲書、pp.109-110。

定は北越のトンキン湾境界画定交渉提案より前であった可能性がある。

チャンは中国・南越衝突に関する北越の立場につき「ハノイはサイゴン軍敗北直後に『多くの場合、隣国間の領土・国境をめぐる複雑な紛争では注意深く慎重な検討が必要である。関係国は交渉により良き隣人の精神で紛争を解決すべきである』と中国との意見の相違を表明する前例のない公式声明を発出した」として領土紛争に関する中越関係の転換点を画するものであったように見えると指摘している⁸。

(2) 1970年代の交渉

北越は開発留保海域を設ける中国提案を受け入れ1974年8月15日に北京で外務次官レベル交渉が開始された。

北越側はトンキン湾を越中2国が歴史的に管理してきた「歴史的湾」とすることを提案したが中国側は受け入れず、中国が瓊州海峡は自国の内水と主張したこともあり11月までの交渉に進展はなかった。1977年10月～1978年6月の第2回交渉もカンボジア問題をめぐる両国関係悪化で進展しなかった⁹。

1887年仏清条約はともに正文の仏語と中国語のテキストで作成され1887年6月26日に北京で署名された。付属地図のバリ・メリディアン東経105度43分(グリニッジ子午線東経108度3分13秒)に赤線が引かれている。

越側は「①トンキン湾は越中のみが管理してきた『歴史的湾』である、②湾口を定義して、仏清条約子午線を境界線として海域を分割する」ことを主張した。条約締結当時、領海を超えるEEZや大陸棚水域の制度はなかったので公海の分割はできず、同子午線で海域を分割するには「歴史的湾」とする必要があった。

中国側は「①トンキン湾は湾口が広く『歴史的湾』とするのは無理がある、②仏清条約は陸上国境を定めているが付属地図の線は島嶼の帰属を定める線で海洋境界を定める線ではない、③瓊州海峡は中国の内水である」と主張した。

8 Chang Pao-min, *The Sino-Vietnamese territorial dispute*, The Washington Papers, CSIS, Praeger Publishers, 1986, p.25.

9 チャン・コン・チュック博士への筆者ヒアリング(2017年8月5日、ハノイ)などによる。

仏清条約子午線の解釈をめぐる対立は、同条約第2条の関連部分の仏語正文と中国語正文の表現の違いが原因とする研究者が多い¹⁰。仏語と中国語の表現の違いとされる関係部分は以下のとおりである。

【フランス語正文テキスト】：パリ子午線の東経105°43'の線、つまり、Tch'a-Kou または Ouan-chan (Tra-Co) 島の東端を通過する南北の線で境界を形成する線の東にある島々は中国に属する。西にある Go-Tho 諸島と他の島々はアンナンに属する(仏語正文テキスト¹¹からのプレスコットの英訳とチャン・パオミンの英訳を参考にした筆者和訳)。

【中国語正文テキスト】：海洋の島々については両国境界画定担当者が引いた赤線が Chagushe (中国語で Wangzhu) の東部の丘の頂上から南に伸びて分割線を形成する。線の東にある島々は中国に帰属する。Jiutousan (越語で Gotho) の島々と線の西にある他の小島はベトナムに属する(中国語正文テキストからのチャン・パオミンの英訳¹²からの筆者和訳)。

仏語テキストは子午線について「境界を形成する (formant la frontière)」と表現しており、同条約中で陸上国境も仏語正文では「frontière」の語が用いられている。

1970年代、未だEEZの制度は成立しておらず、越側はトンキン湾を「歴史的湾」として越中間で分割しようと提案した。中国側は「歴史的湾」とする考えを否定し、交渉を受け入れる姿勢はみせるが妥結させる意志はなかったとも考えられる。第3次国連海洋法会議は1973年に開始さ

10 チャン・パオミン、ゾウ・ケユアン、リユー・ヴァン・ロイ、チャン・コン・チュックともに越中間の立場の相違の最大の原因としてこの点を指摘している。

11 仏語テキスト(チャン・コン・チュック博士から入手)：

Les îles qui sont à l'est du méridien de Paris 105°43' de longitude est, c'est-à dire de la ligne nord-sud passant par la pointe orientale de l'île de Tch'a-Kou ou Ouan-chan (Tra-Co) et formant la frontière, sont également attribués à la Chine. Les îles Go-tho et les autres îles qui sont à l'ouest de ce méridien appartiennent à l'Annam.

12 チャン・パオミンの中国語テキストからの英訳：

As far as the islands in the sea are concerned [italic added], the red line drawn by the officials of the two countries responsible for delineating the boundary shall be extended southward from the eastern hill-top of Chagushe [or Wangzhu in Chinese] and constitutes the dividing line. The islands lying east of this line shall belong to China. The islands of Jiutousan (Gotho in Vietnamese) and other small islands west of this line shall belong to Vietnam. (上記 Chang Pao-min, "The Sino-Vietnamese territorial dispute", p.13)。